# 土質基礎工学会の最近の動き

正員　工学博士　星　埜　和*

国際土質基礎工学会（International Society of Soil Mechanics and Foundation Engineering）は1947年夏オランダのロッテルダムで第2回国際会議が開かれた時の提案に基いて国際的な学会組織を持つに至り，昨年秋日本の参加も認められ，日本土質基礎工学委員会が土木学会内に事務所をおいて支部としての活動を行つている。

国際学会は本部をボストンのハーバード大学におき会長テルツアギ教授，幹事テイラー教授で各国に支部をおく。現在（昨年12月末）の参加国は次の通り。

アルゼンチン，オーストラリア，カナダ，デンマーク，エヂプト，フランス，英国，インド，イスラエル，イタリー，日本，オランダ，ノルウェー，スイス，南阿聯邦，米国，ユーゴスラビヤ

又参加計画中又は予定の国は

ベルギー，コロンビア，フィンランド，スペイン，チェコスロバキヤ，ドイツ，メキシコ，ポーランド，南ローデシア，スエーデン，トルコ

国際学会は会員名簿を発行し，毎年年報（Anual Report）を交換して，相互の連絡を密にしている。明年1953夏にはスイスで第3回国際会議が開かれる予定で，準備中であり，既に予備的な案内状としてBulletin No. 1が我国にも送られてきた。

日本委員会は一昨年10月同志を糾合して創立，発足してから2年間，土木建築両学会の後援の下に官民各方面の援助を受けて順調な発展を見ており，現在会員138名である。この委員会は海外との連絡機関として又国内土質基礎工学の研究連絡機関として果すべき役割は極めて大きく，遂行すべき事業も多岐に亘るのであるが，漸進主義によつて地味ながら堅実な発展を期している。委員会活動の中心は15名からなる常任委員会にあつて，活潑な討議の後運営方針を決定している。名簿，年報の作成，受領年報の印刷頒布，本部連絡事項の処理など委員の負担は中々重いのであるが，更に春秋2回定例講演会見学会を開催して研究発表を行い会員の親睦を図つている。昨秋11月30日日本大学講堂で行われた講演会の題目を参考のため掲げておく。

1. 土の電気伝導について（第1報）
　早大　森　麟
2. 行徳可動堰の基礎調査
　土木研究所　増村啓一郎
3. 建築学会基礎構造設計基準案の擁壁に働く土圧算定式について　早大　古藤田喜久雄
4. 弾性波法による土壌層の弾性係数の測定
　運輸技研　林　聰
5. 基礎杭の選択に関する2，3の問題
　早大　南　和夫
6. 根室本線門静一厚岸間の地辷り
　国鉄四鉄　山田剛二
7. 土の化学的性質と物理的性質との関連性について　東京教育大農　和田　保
8. 貫入試験に関する試案　京大工　松尾新一郎
9. 米国に於ける土質力学研究の現況
　東大　最上武雄
10. 東京地下鉄工事について
　帝都高速度交通営団　高坂紫朗

終つて地下鉄工事を見学した。なお常任委員会は昨年夏日活国際会館基礎工事，福島県下農林省営土堰堤工事の視察を行つた。

研究面に於ては文部省科学研究費による構造物基礎の設計示方に関する研究，建設省補助金による関東地方工学的土性図の作成研究を委員会自らの手で実施中である。又工業技術庁の委託により日本工業規格JISの制定に協力，当山道三博士を委員長とする委員会に於て原案作成を行つている。既に制定ずみの規格は

A1201 土の粒度試験および物理試験のための試料調製方法
A1202 土粒子の比重試験方法
A1203 土の含水量試験方法
A1204 土の粒度試験方法
A1205 土の液性限界試験方法
A1206 土の塑性限界試験方法
A1207 土の遠心含水当量試験方法
A1208 土の現場含水当量試験方法
A1209 土の収縮常数試験方法
A1210 土の突固め試験方法

* 東大教授，日本土質基礎工学委員会幹事

で，目下審議中のものは

土の支持力比試験方法

道路の土質調査ならびに試料採取方法

土の試料採取方法（アース・ダム）

土質に関する用語は土木建築地質農業の各方面で統一を欠き整理の必要が認められるのであるが，差当り土木学会用語委員会に協力原案を作成することができた。

本委員会には正式な支部は設けられていないが，各地区での委員会活動も活潑に行われ，特に関西では京大の石原，村山，松尾の諸氏が中心になつて活動し，土質講習会を開催し土質工学の普及に努めており，九州では九大の松尾，水野，内田の諸氏が中心になつて研究会見学会を主催し，土質試験法解説を作成，土質に関する地区内の特殊な研究を進めている。

昨年来土質関係研究者の海外出張留学の機会に恵まれ，本委員会関係でも次の方々が米国に渡り最近の知識を吸収，貴重な収獲を収めつつある。

竹山謙三郎（建築研究所）　3ヶ月

谷藤　正三（土木研究所）　3ヶ月

石井　靖丸（運輸省港湾局）1ヶ年プリンストン大学留学，12 月末帰朝

最上　武雄（東大）　3ヶ月

渡辺　　隆（東大）　MIT 夏季講習会出席

都　　淳一（国鉄）　1ヶ年ガリオア留学生ミシガン大学留学中

斎藤　迪孝（国鉄）　1ヶ年ハーバード大学留学中

## 学会取次書籍一覧表

| 書名 | 著者 | 定価 | 送料 |
|---|---|---|---|
| 撓角法に依るラーメン公式集並に用法 | 木下洋三郎 | 300 | 45 |
| 土木工法資料（設計施工及積算） | 磯崎伝作 | 300 | 45 |
| 鋼鉄橋梁設計資料 | 橋梁研究会 | 300 | 45 |
| 日本建設機械要覧 | 建設機械化協会 | 1 000 | 最高 95 |
| 建設機械施工積算要覧 | 高橋吉雄 | 250 | 30 |
| 福井地震震害調査報告 | 北陸地震震害調査報告委員会 | 420 | 40 |
| 山旅人学 | 山口昇 | 200 | 20 |
| 技術と哲学 | 平山復二郎 | 160 | 20 |
| 観光道路 | 全日本観光連盟 | 150 | 20 |
| コンクリート工学 | 山田順治 | 250 | 35 |
| 建築の防災 | 建築技術研究会 | 470 | 45 |
| 立木幹材　材積表 | 農林省山林局 | 150 | 20 |
| 丸太　〃 | 木材技術研究所 | 200 | 20 |
| 木材工作接着の技術 | 脇田勝之 | 120 | 20 |
| 土木施工法 | 佐藤利恭 | 300 | 35 |
| 構造力学　第1巻 | 小西一郎外2名 | 400 | 45 |
| 構造力計算法入門 | 成瀬勝武 | 180 | 25 |
| 土木技術シリーズ (1) ダムの地質 | 田中治雄 | 200 | 25 |
| 土木技術シリーズ (2) ニューマチックケーソン工法 | 魚住種治 | 160 | 20 |
| 土木技術シリーズ (3) 路床・路盤の設計 | 巻内一夫 | 200 | 25 |
| 道路工学 | 岩沢忠恭 | 80 | 20 |
| 鉄筋コンクリート道路橋の設計 | 河村協 | 280 | 25 |
| 基礎の支持力論 | 星埜和 | 280 | 25 |
| 現場土質試験法 | 谷藤正三 | 150 | 20 |
| 水路隧道施工法 | 高橋清蔵 | 250 | 30 |
| 閘門の設計 | 幕田貞夫 | 160 | 30 |
| 河川工学 | 末松栄 | 400 | 45 |
| AE コンクリート施工指針 | 鉄道技術研究所 | 40 | 10 |
| コンクリートパンフレット　1号～19号 | セメント技術協会 | 各 60 | 10 |
| 最近測量学 | 平野武文 | 460 | 45 |
| 土木日記 | 鉄道時報局 | 120 | 10 |